

元治記事

六

庫文閣内			
五	二		和
函	七〇		書
	八		
架	冊	號	類

(大)

内閣文庫	
番號	和 27086
冊數	51 (34)
函號	151 1



元次六

長洲藩の家老古原公軍令陳

修

は後之より事上之より所之より法隊者此の法

事之後之より法隊者

一 従事之者令法隊之より法隊者令法隊者

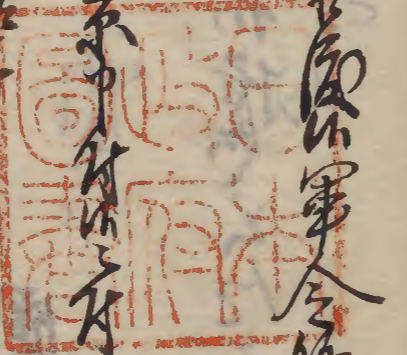
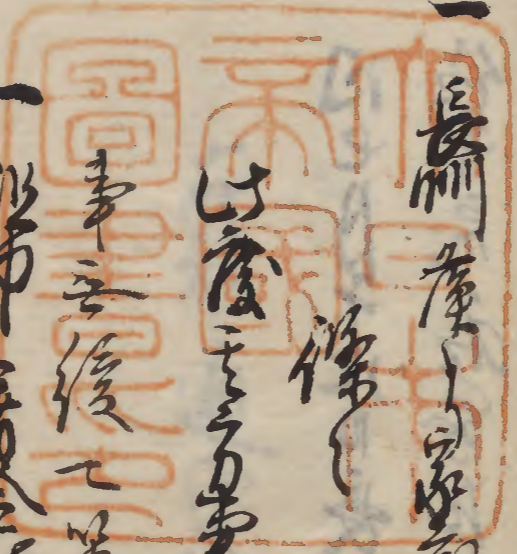
法隊一和之行軍事

一 私家之より中 従事之者令法隊之より法隊者

其之より事

一 警備隊之より後之より事

一 團長之勤務法隊之より後之より事



明治十年

一 備上唐解之衣被之目 以下書之 陸士匹者
御之方地不之礼之事
右 備上唐解之衣被之目 以下書之 陸士匹者
取家切被之平也
元治元年

憲宗

國司任流之

一月七月十八日長州前據之公之來 日之なる
佐出流之石方之也

右能通所收 御免

坊城大納言
大炊出右大将

中山大納言
橋本中納言
石山次将
同右金部松任
平松甲斐守
又过大夫
右柳川中務

一傳養野之文申納之概
松平裁中書稱以四座書
去十九日亦日高之
大失之西洞院且條上ん
有馬中督大傳首交長白
全親禮使似之薩
望中上以以上

七月廿九日

有馬中督大傳

一六州横涉和院
山口安部免加州
概在殿子
一七月晦日去田
信濃主在十月
造致信以免
有馬川宮極殿
父子
有馬川極殿
父子
大炊門右大將
概
正親町大納言
概

前書物
日野大納言
概
揚中納言
概
中山前大納言
概
石山左將
概
父子
新徳寺
概
赤松中納言
概
入道大史
概
石山十九日
一奉
身以不審
之候
望為
在
号
以
洞
申
紙
止
来
相
筆

他他仍希他人
而云云用

中山前大納言
概
從錄有北
之
候
御
沙
送
為
在
以
是
八
日
乙
令
未
取
以
也

七月廿八日

一 月廿八日山口内通度寺禪修後身

大樹より急使とて上京今日夜多弁故に於

所居在りて候事

一 栗田口迄御参り候に先立能辨日向

書取候 任付事

一 去月十九日 禁闕より接札有之汚穢に候事

石清水放生會に於て去月十八日 任出候事

一 大津少細立候に不審に候事有之在り候事

此止奉 朝志化行并他人を令事候事

一 八月十三日於大坂内府藏田市藏度

山道

馬中智大備

九州討事

一 先 黒田

二 薩州

三 有馬

四 立花

長州討候事 任出候事有之書取候事有之

去月廿八日在書取候事有之撰進候事有之

之移子之... 小倉大里... 波地... 成吉... 荒崎...

高村権内

甲子八月

同松大... 平... 山...

佃井

歩兵隊

板倉内膳心

歩兵隊

戸田誠前守

沼田

多尾丹波守

洞屋
田中

石川若穂守

石田

古原宗如正

北條
田

中之塚
風曲作

丹羽在系之史
牧野越中守

志願

原小姓能高氏
西之守

洞中男一人教之金也
有女者 洞井一人教之
中合右進討少也

教出也 任出也
之知洞中一人教之
信合委細之候

子八月

新見方人教之土
多田沼根市日
之在也

海波山

十日出立遊去

浪人

品本晴雄

宇野吉左衛門

熊谷勘三郎

人致百人令

十四日出立遊去

浪人

西島邦之助

水野五馬

人致十人令

小川村玄聖寺

其日出立遊去

田丸福五郎

尾田小次郎

岩谷致一郎

市内西一郎

藤本三左

川又善七郎

三橋中六

佐田邦之助

田中源藏

人致百人令

牛根水左衛門合致之申細意極甚
其後出立遊去浪人六人足派一子
討取少無心者之者一書指殿中一書
御之也

浪人等能遊去之者其後浪人取也

新波山

後持院用

松田登三郎

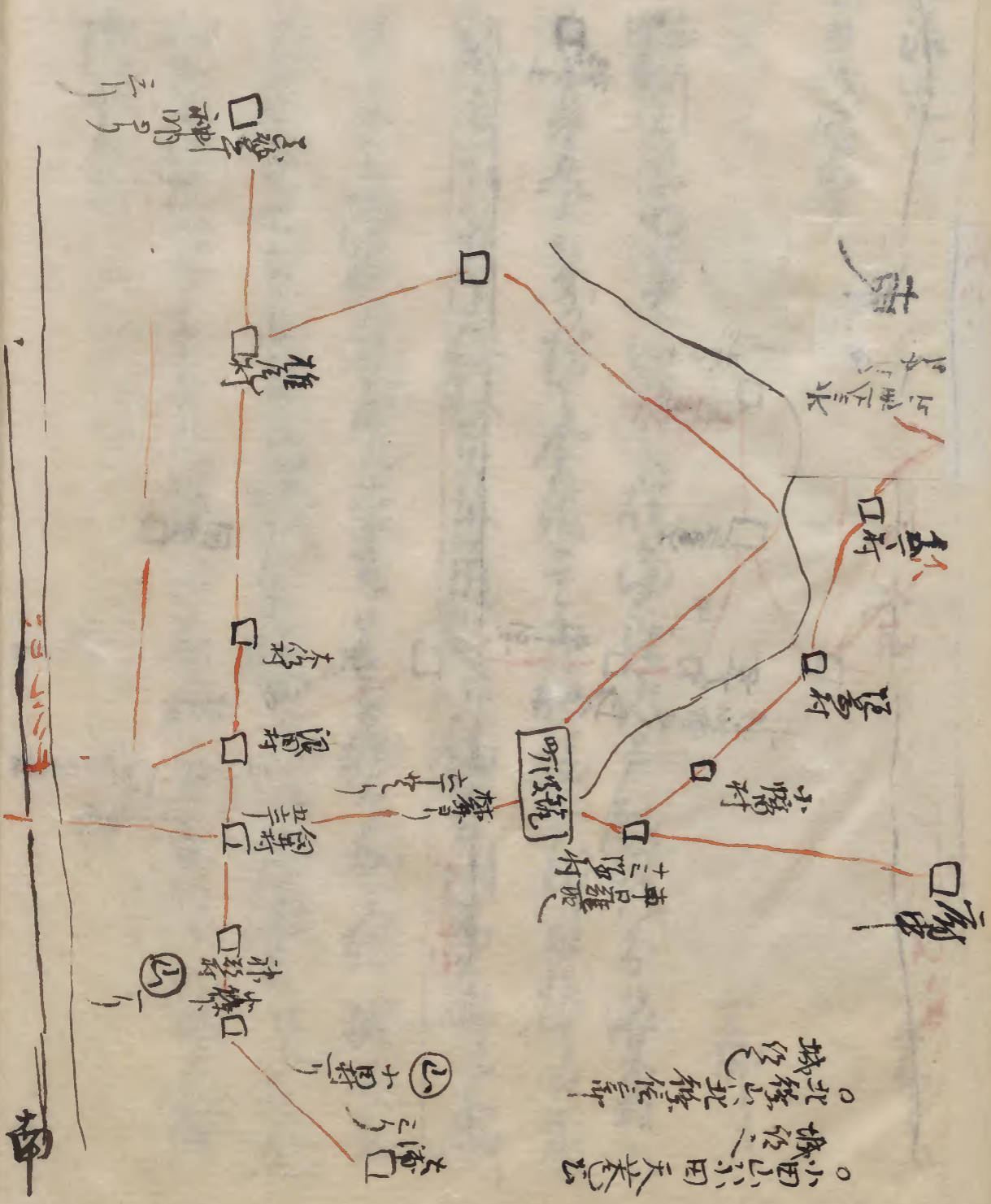
使者

八月十日石田人河津中へ紙幣等由陸奥

人等七名常備

一 新波山 新波山は若狭守の治人等は所々城に
 東方二府中へ送去り名は新波山と云ふ海軍に
 守り奉る也 中へ金銭を以てし 新波山人等も亦在
 石田新波山は石田新波山人等若狭守而新波山に
 此等石田中へ紙幣を以てし河津中へ送去り

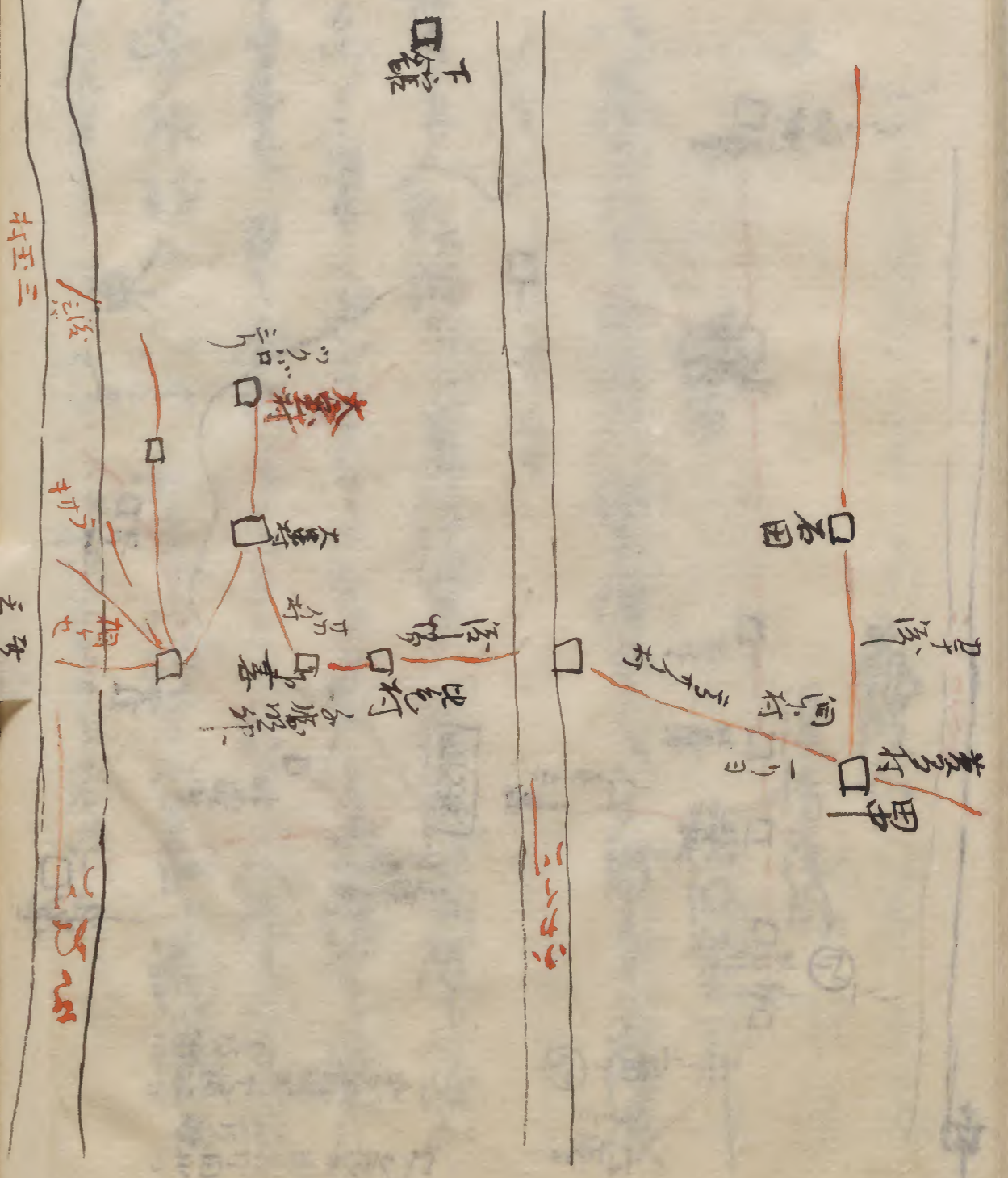
大森村之神部 新波山に在りし
 東之方 畑中は目下新波山へ村等送



○小田山 石田天光也
 ○北條山 北條信三郎
 ○城 石田

南

北

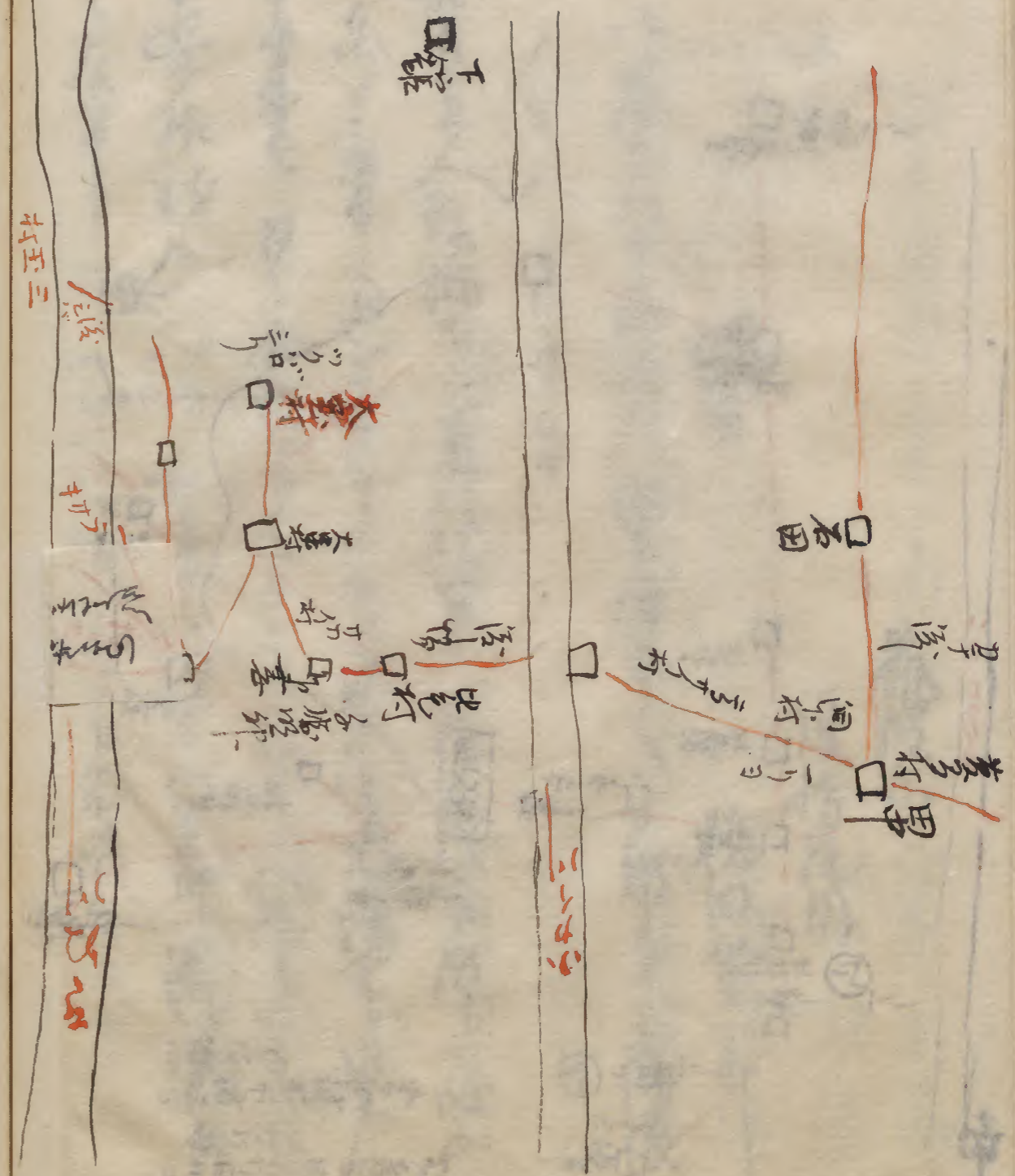


一 文治元年甲子年八月十九日

一 備前守 横山 家範

加納官一節

野州多田集河邊之流高田水之勢能分海流有記
 其基在之多少材之全流之系流能分海流有記
 嵐高にあり人殺りた出以前に備前守横山家範
 行又と陸地を無に有る是も河分無記御書在
 方史記之也此中ハ堤田御書之也海流に打合
 之也海流之系流分信之也海流之系流分信之也
 海流分信



一 元治元年甲子年八月十九日 牧野備前守頼朝 家集

このころは、いまだ頼朝が、

加納官一節

野州名也集海邊、信濃信水、船行分、海軍前、に
 其集居、多材、令、信、年、結、信、未、月、出、也、有、本
 嵐、高、に、お、く、人、殺、り、出、目、前、に、信、重、川、舟、船、多、也、
 行、又、と、陸、地、に、お、く、在、る、者、甚、多、也、源、平、其、時、御、所、在、
 方、東、之、て、其、中、に、堀、田、五、種、等、之、也、澤、原、に、七、打、合、
 之、五、渡、橋、下、之、中、に、信、重、之、所、在、也、其、中、に、一、打、合、
 所、在、也、

山形之仕集

一 同日十月十日、物部月野水野和泉守俊成、
去十九日、曉竹田河原、西面、
長岡野、
当夜子連、
但善政、
三所、
しもの、
御新、

揚、
五、
竹田、
揚、
州、
中、
教、
實、
是、
亦、

河洲より老翁有り長途を往く捕りて大砲は是
所後人の中有人是より中平を以て其を以て所
家名を記し人殺し後大乗通と西に之丁砲寺
不明の通に於て之れ又長洲の地ハ備り多し
と東洲院と引上りあり是より多し其の出り如旗
馬市あり之れ彼家難にあり付回各り如昔の
時之より其の礼物に給ふ其の先是に古出張りあり
從同仕多し長洲の地は遠に上り之れ其の地あり
此れ中知れ多し其の地は此の地あり其の地あり
此れ外此の地あり其の地は此の地あり其の地あり

河洲より老翁有り長途を往く捕りて大砲は
今之れあり其の地あり其の地あり其の地あり
河洲より老翁有り長途を往く捕りて大砲は
河洲より老翁有り長途を往く捕りて大砲は
河洲より老翁有り長途を往く捕りて大砲は
河洲より老翁有り長途を往く捕りて大砲は
河洲より老翁有り長途を往く捕りて大砲は
河洲より老翁有り長途を往く捕りて大砲は
河洲より老翁有り長途を往く捕りて大砲は
河洲より老翁有り長途を往く捕りて大砲は
河洲より老翁有り長途を往く捕りて大砲は

見事ノ事強進ノ大途ノ事或採集ノ原由ハ
伝中出ル有之候ハ在申下申丈ハ捨テハ江ノ内
ノ邊ノ如ク又方道ノ在ル仕ル形ハ亦以テ有之候
今出川ノ事ハ人殺採集ノ事ハ採集ノ事ハ
亦亦ノ同合ノ如ク動機音官ノ事ハ亦以テ有之候
所由事ハ亦以テ有之候中ノ事ハ亦以テ有之候
人殺採集ノ事ハ亦以テ有之候中ノ事ハ亦以テ有之候
如中同作ノ事ハ亦以テ有之候中ノ事ハ亦以テ有之候
起及ハ亦以テ有之候中ノ事ハ亦以テ有之候
之曰如事ハ亦以テ有之候中ノ事ハ亦以テ有之候

傳者ハ亦以テ有之候中ノ事ハ亦以テ有之候
之心中事ハ亦以テ有之候中ノ事ハ亦以テ有之候
仕ル事ハ亦以テ有之候中ノ事ハ亦以テ有之候
如ク事ハ亦以テ有之候中ノ事ハ亦以テ有之候
或ハ亦以テ有之候中ノ事ハ亦以テ有之候
採集ノ事ハ亦以テ有之候中ノ事ハ亦以テ有之候
如ク事ハ亦以テ有之候中ノ事ハ亦以テ有之候
日ノ事ハ亦以テ有之候中ノ事ハ亦以テ有之候
採集ノ事ハ亦以テ有之候中ノ事ハ亦以テ有之候

日能者退之... 松平紀俊... 御花畑... 連... 御... 中...

前同右様...

一 列帳

八月廿七日

堀和清

荒

十九日... 款之人...

...

一 中間仲人

生捕

...

一 小旗

...

一 大砲

...

作守...

一 日 破玉

拾之

一 日 月ノ下ノ玉

七之

一 換地

六挺

四

拾金

由挺

六分

之挺

四分

之挺

三分

之挺

一分一厘

之挺

一 朋乳

之

一 二百兩銀

十之

一 小玉

二之

合捕町家江通子産燧矢仕込乃良銀之

一 禮

由中

一 六分筒

由挺

一 一分一厘筒

由挺

一 具足

一 古弓
坊至
大人坐捕

一 債

三 生補

二 分補初

一 大小

六 腰

一 響

二 ツ

一 小

二 楸

一 播多

二 扱

一 陣相威

一 ツ

一 羽丸

六 ツ

一 七十一工一几音

六 挺

一 筆

三 蓋

一 換物

三 一

一 フリッキ合菜入

三 ツ

一 管

三 ツ

不之通之四左下上

扇用右持手家来

二月十七日

師和師藏

一甲子八月九日之通書英佛草之書其

明年以來

朝命幕令之改口改口之案外亦能及此改口也
當國奉教之改口改口之改口亦能及此改口也
初改口之案外亦能及此改口也
後者之改口亦能及此改口也

以付

朝命仍定復之長口及改口案外亦能及此改口也
改口之案外亦能及此改口也
案外亦能及此改口也
案外亦能及此改口也

書翰之改口亦能及此改口也
改口之案外亦能及此改口也
案外亦能及此改口也
案外亦能及此改口也

八月九日

松平大膳奉文監

右通人西向の案外亦能及此改口也

佛人カヨ之改

一 今月三日 日中 八月 西洋 九月 一 敬年 始 八日 是 六月

弓 戦 小

一 佛軍 禮 之 般 小 石 六 日 一 百 余 九 共 殺 死 せ 了

一 佛 云 死 之 二 人 傷 之 形 人 其 死 之 人 傷 亦 卒 人

弟 死 之 人 傷 亦 卒 人

一 名 國 軍 云 上 陸 全 戦 之 言 佛 云 之 傷 亦 卒 人

少 名 陸 軍 之 卒 形 亦 卒 人 戦 之 言 長 州 云 亦 卒 人

勇 戦 之 言 亦 卒 人

一 和 儀 之 事 亦 卒 人 長 州 之 云 九 十 子

人 亦 卒 人 死 場 亦 卒 人

一 中 國 屯 場 大 炮 百 挺 亦 卒 人 八 拾 七 挺 亦 卒 人

和 儀 之 事

一 上 陸 之 屯 口 亦 卒 人 長 州 之 大 之 酒 亦 卒 人

兵 亦 卒 人 亦 卒 人

一 長 州 之 亦 卒 人 亦 卒 人

又

一 長 州 之 和 儀 之 亦 卒 人 亦 卒 人

亦 卒 人 亦 卒 人 亦 卒 人 亦 卒 人

亦 卒 人 亦 卒 人 亦 卒 人 亦 卒 人

亦 卒 人 亦 卒 人 亦 卒 人 亦 卒 人

先きの引込船の中無り上風流云云
右の船は八月廿二日横濱に在りて
八月廿三日横濱に在りて

増補新聞紙抜書

西國蒸氣船一千二百六十八月廿九日別中園
高橋の船名右船名は西國蒸氣船

八月廿九日日本役人云云と云作との

米の海無行自船名云云と云作との

船名高橋云云と云作との

船名高橋云云と云作との

此の船は高橋の船名云云と云作との

高橋の船名云云と云作との

高橋の船名云云と云作との

高橋の船名云云と云作との

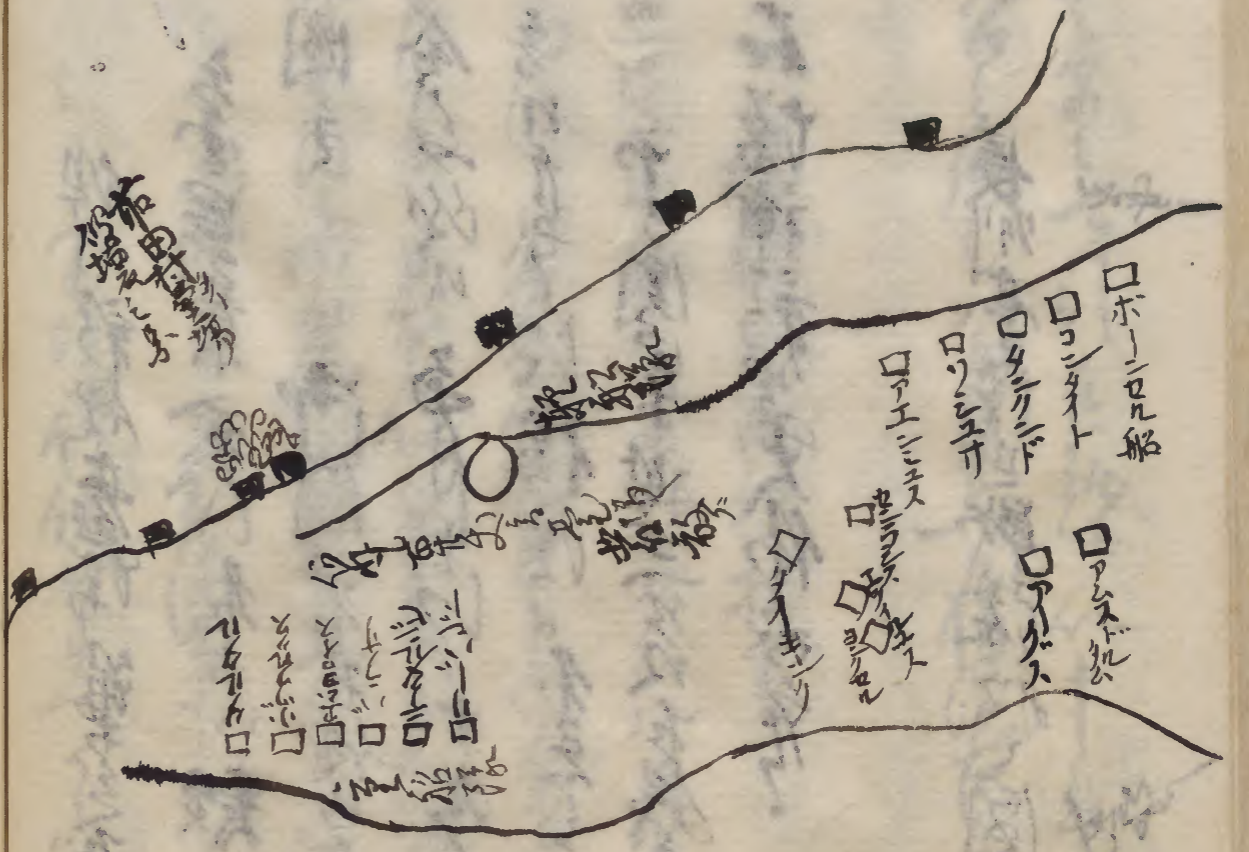
高橋の船名云云と云作との

右増補新聞紙抜書

長洲蒸氣船と云作との

一

長洲



一月廿五日 和泉寺及河内

大目附口

毛利大膳父子の跡留信成

御進退の途に於て 遠く東海に迄留りて 存

揚兵備則亂るは 汝も遠く東海に

御旅籠に 仁科の在りて 吾等向格別之

取留一切の途に 汝も遠く東海に 難於

此の 手廻神理に 由り

一 松の草薙兼木 遠く東海に 汝も遠く東海に

河内 汝も遠く東海に 汝も遠く東海に

江華用之乃師進平山
不之出科之代發
兵之往之往之地
兵之往之往之地
兵之往之往之地

八月

一 豐後省度所

大目付江

毛利大膳之父子
經有之有之
防之由江輸入
防之由江輸入

運輸之由江
止之時之
運輸之由江
運輸之由江
運輸之由江

八月

一 九月新河渡心書付寫

万石之
如之由之
如之由之
如之由之

昔も此の 在り付く後之前に此之に刻るは
右の事勅交代と云ふ事也 伝出

百石以上を有する文部省令賜ふに在り付くは
書子國村に引取らるるに在り付くは其の故
に 傳出はるるに付くは引取らるるに在り付くは
御進敷に引取らるるに在り付くは

男に此の在り付くは引取らるるに在り付くは
松之助と云ふ 傳出

此の事付今此に在り付くは引取らるるに在り付くは

中ノ渡

一日國村の故

大目付に

是

今度此の事引取らるるに在り付くは
伝出はるるに在り付くは引取らるるに在り付くは
多事引取らるるに在り付くは引取らるるに在り付くは
右の事引取らるるに在り付くは引取らるるに在り付くは

此

是は中津藩に引續き下付居るに由り
し一宗に所出者再し之を襲居りしに
少る不致し其月北人怪我人云云取居有彼
之如所之迎云所之其如引し一也其
做す事也

作一少人怪人信之迎云引し其如引し其如
切部不亦之其如引し其如引し其如

一 松平左衛門尉長次申分松平左衛門尉長次
常例蒞城松平村河津村之其如引し其如引し
作一宗に所出者再し之を襲居りしに

此宗に所出者再し之を襲居りしに

此宗に所出者再し之を襲居りしに
此宗に所出者再し之を襲居りしに
此宗に所出者再し之を襲居りしに
此宗に所出者再し之を襲居りしに
此宗に所出者再し之を襲居りしに

一 武田信玄と高田信春
柳原宗元と高田信春
此宗に所出者再し之を襲居りしに
此宗に所出者再し之を襲居りしに
此宗に所出者再し之を襲居りしに
此宗に所出者再し之を襲居りしに
此宗に所出者再し之を襲居りしに
此宗に所出者再し之を襲居りしに

一 田丸種之ちり美 多分カ川知之 正平年 竹田
酒之石名門之海 未月正平尚又書制部
上似多村古者^{ケン}時 多田丸正平年 武略記 月夜
実多

但此の自續之云 正平年 武略記の
人板抄 種之ちり美

一 多分カ川知之 正平年 竹田
三ノ品本 武略記

但此の自續之云 正平年 武略記の
南又怪我人 正平年 武略記

一 藤原

一 正平年 竹田

一 藤原 正平年 竹田

一 田丸種之ちり美 正平年 竹田

正平年 竹田
正平年 竹田

一 小川 正平年 竹田

一 高野山に在りては、
一 住持の志

一 高野山に在りては、
一 住持の志

一 高野山に在りては、
一 住持の志

一 高野山に在りては、
一 住持の志

一 高野山に在りては、
一 住持の志

一 高野山に在りては、
一 住持の志

一 高野山に在りては、
一 住持の志

一 高野山に在りては、
一 住持の志

一 高野山に在りては、
一 住持の志

一 高野山に在りては、
一 住持の志

一 高野山に在りては、
一 住持の志

一 高野山に在りては、
一 住持の志

一 高野山に在りては、
一 住持の志

一 高野山に在りては、
一 住持の志

一 高野山に在りては、
一 住持の志

一 高野山に在りては、
一 住持の志

一 高野山に在りては、
一 住持の志

一 高野山に在りては、
一 住持の志

一 高野山に在りては、
一 住持の志

一 高野山に在りては、
一 住持の志

十九日定厚家孫少教の多々 園市村常市事
史介引續今晩一様家孫少教の事 社方の上
由神成明の事 園市村の事 社方の上
壬午孫少教の事 常市の上 園市村の事 社方の上

中

一 中越孫少教の事 園市村の事 社方の上
右取道の上 常市の上 園市村の事 社方の上
壬午孫少教の事 常市の上 園市村の事 社方の上

一 孫少教の事 園市村の事 社方の上

一 孫少教の事 園市村の事 社方の上
右取道の上 常市の上 園市村の事 社方の上
壬午孫少教の事 常市の上 園市村の事 社方の上

一 孫少教の事 園市村の事 社方の上
右取道の上 常市の上 園市村の事 社方の上
壬午孫少教の事 常市の上 園市村の事 社方の上

細井村

室前山内
日吉山内

止吉山内

松倉山内

沼田村

三吉山内

元田山内

山内

沼田村

沼田村

山内

山内

山内
山内

山内

山内

山内

山内

山内

山内

山内

山内

古位歌

一 龍波山之古位人其夕幾引拂也
其古位人其夕幾引拂也其古位人其夕幾引拂也
其古位人其夕幾引拂也其古位人其夕幾引拂也
其古位人其夕幾引拂也其古位人其夕幾引拂也

一 田丸稻音方多麻唐也其古位人其夕幾引拂也

一 定戸松本無後武田勢也其古位人其夕幾引拂也

水戸古位人其夕幾引拂也其古位人其夕幾引拂也
其古位人其夕幾引拂也其古位人其夕幾引拂也
其古位人其夕幾引拂也其古位人其夕幾引拂也
其古位人其夕幾引拂也其古位人其夕幾引拂也

一 渡邊有也而也其古位人其夕幾引拂也

其古位人其夕幾引拂也其古位人其夕幾引拂也
其古位人其夕幾引拂也其古位人其夕幾引拂也
其古位人其夕幾引拂也其古位人其夕幾引拂也

子八月十九日

國分村
古位人
其古位人其夕幾引拂也

進一由是引續也其古位人其夕幾引拂也
其古位人其夕幾引拂也其古位人其夕幾引拂也
其古位人其夕幾引拂也其古位人其夕幾引拂也
其古位人其夕幾引拂也其古位人其夕幾引拂也

形勢有甚險者

青以水產中家室戶松交之難保亦不

言治元元少人案通之水居保保之保事

事以言水產保亦保松案江津在而國良保

亦保之也言水產保保之保事在江津亦不

之中亦川之也言水產保保之保事在江津亦不

在防以保之也言水產保保之保事在江津亦不

言治元元少人案通之水居保保之保事

保之保事在江津亦不

保之保事在江津亦不

保之保事在江津亦不

保之保事在江津亦不

保之保事在江津亦不

保之保事在江津亦不

保之保事在江津亦不

保之保事在江津亦不

保之保事在江津亦不

保之保事在江津亦不

保之保事在江津亦不

皇朝御製

石之印

冬

子



忠

幸

